

一 色心を心法と云ふ事

仰せに云はく、玄の十に云はく「請^{しょう}を受け説く時、只是^{ただこれ}教意を説く。教意は是^{かんなん}仏意なり。仏意は即ち是^{かんなん}仏智なり。仏智至^{かんなん}って深し。是の故に三止四^{さんしししょう}請す。此くの如き艱難余経に比^{かんなん}ずに余経は則^{すなわ}ち易^{やす}し」と。此の釈の意分明なり。教意と仏意と仏智とは何れも同じ事なり。教は二十八品なり。意は題目の五字なり。総じて仏意とは法華経の異名なり。法華経を以て一切経の心法とせり。又題目の五字を以て一代説教本迹二門の^{たましい}神とせり。経に云ふ妙法蓮華経如来寿量品とは是なり。此の題目の五字を以て三世の諸仏の^{みょうこん}命根とせり。さて諸経の神も法華経なりと云ふ証文は妙法蓮華経方便品と題したる是なり。